

# 本校の研究の概要

南越中学校

## 1 実践の概要

〈研究主題〉「主体的・協働的に取り組み、深い学びに向かう生徒の育成」

## 2 研究主題設定の理由

本校の生徒は、日々勉強や部活動など学校生活に一生懸命取り組んでいる。ほとんどの生徒は真面目で与えられた課題にはしっかり取り組み、落ち着いた態度で学習している。しかし、自分の意見を他の人の前で言えないなど主体性にかける姿が多く見られる。5月に生徒の実態を知るためにアンケートを実施した。

項目 (とてもあてはまる…4、少しあてはまる…3、あまりあてはまらない…2、まったくあてはまらない…1)	
私は、課題を発見し、見通しをもって、意欲的に学習に取り組もうとしている。	3. 0 5
私は、自分の意見や考えを持ち、それを表現しようとしている。	2. 9 1
私は、友達の意見をよく聞いて、よい考えを取り入れようとしている。	3. 4 2
私は、友達の意見でわからないときは、積極的に質問し、理解しようとしている。	2. 7 7
私は、学習した内容をよく理解し、深く考えようとしている。	3. 1 7
私は、振り返りやまとめを自分の言葉で表現しようとしている。	2. 9 6
私は、学習したことを生かして、新たな課題に挑戦しようとしている。	2. 9 2

「課題を発見し、見通しをもって、意欲的に学習に取り組もうとしている。」「友達の意見をよく聞いて、よい考えを取り入れようとしている。」という問いには高い数値を示したが、「積極的に質問し、理解しようとしている。」「自分の意見や考えを持ち、それを表現しようとしている。」という主体性に関する問いには低い数値であった。今回の研究で、主体性を育む取り組みを実践する必要があると思われる。

本校は校是『質実剛健』のもと、学校教育目標を『未来を拓く英知と豊かな心を培い、たくましく生きる生徒の育成 ～かしこさ ゆたかさ たくましさ～』としている。

めざす生徒像として

- よく学び、考える生徒
- 互いに認め合い支え合う生徒
- 何事にも粘り強く実践する生徒
- 奉仕と勤労を尊ぶ生徒

とした。

平成31年度から移行期間となる新学習指導要領では、『生徒たちが学習内容を人生や社会のあり方と結びつけて深く理解し、これからの資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取り組みを活性化していくこと』を目標と位置づけている。

そこで今回は、学校教育目標をふまえ、課題に対して主体的に取り組む、仲間の意見を認め合い協力し、いろいろなことに粘り強く推し進める力を持った生徒を育成することに視点を置いて、本主題を設定した。

## 3 研究の内容

### (1) 課題設定の工夫

主体的な学習を行う上で、一番重要としたのが、課題の設定である。授業の最初に本時の目標を提示し、その目標を導き出し生徒の学習意欲を喚起するような課題の設定や提示方法を工夫していった。また、各教科で、生徒自らの既習事項を確認し、新しい知識や情報などを取り入れ、主体的な学びにつなげる課題を設定するようにした。

### <実践例：数学>

「星形五角形の5つの角の和を求めよう」という課題を設定し、生徒が個人で課題迫及していく授業を行った。3～4名のグループとなり、様々な求め方を説明しあい、その後、学級全体で説明したがうまく説明できない求め方が出てきた。その求め方を生徒たち自ら「考えたい」といい、生徒たちの意欲が喚起されている様子が伺えた。

### (2) 協働的・対話的な問題解決の工夫

協働的・対話的な問題解決の方法として、グループ活動の形を検討した。単なる話し合い活動にとどまらず、自分の意見を持ち協働や話し合うことによって「意見を収束させる」「多様な意見を出す」など、目的を明確にできるように話し合いの形態（ペア・グループ・全体）を選択し実践した。自分の考えを協働的・対話的な活動によって深めたり広げたりできるように工夫していった。



### <実践例：社会>

単元の終わりに、単元のまとめの課題について話し合わせる授業を展開した。オセアニア州のまとめとしては「なぜオーストラリアはアジアとの結びつきが強くなったのか」という課題に対して、3～4人のグループで話し合わせた。既習学習を振り返り資源・産業・観光・距離などさまざまな観点から生徒が主体的に考え、積極的に意見を交換している様子が伺えた。

### (3) 授業を振り返り深い学びへ向かわせる工夫

授業の最後には、本時を振り返り深い学びへ向かわせる工夫を行った。各教科の「見方・考え方」を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせて、その時間に学習した内容をどのように社会に生かしていけるかについて考えさせ、思いや考えを基に意味や価値を創造していく取り組みを実施した。また、その活動を次時につなげPDCAサイクルを構築するシステムの実践を図った。

### <実践例：英語>

英語科では以下のように深い学びへ向かわせる実践を行った。

①ワークシートに振り返りを言葉で書かせるようにした。

ワークシートをまとめることで、自分の学びを振り返ることができる（メタ認知）生徒が見られるようになった。また、教師がワークシートを読むことで、生徒が希望していることを授業にとりいれるようになり、次時に生徒が主体的に取り組む授業が展開できていた。

②自分や家族、友達に関する内容を話題にした。

身近な内容を話題にすることで、生徒たちはより積極的に授業に参加し、英語で会話するようになった。

③テーマに関して、英語で意見交換をし、考えを深めた。

生徒が主体的に自分の意見を表現しようとし、また、他の人の意見を聞いて考えを深められた生徒も見られた。

④自分が選んだ人物について英語でレポートを書かせた。

生徒は自分の興味・関心のある人物に対して意欲的にレポートを作成していた。これま

で自分や自分の周りの人について英語でペアパートナーと話し合ったり、作文に書いたりしてきたことや個人の意見をたびたび表現させてきたことが意欲につながった。

#### 4 研究の成果

今回の研究を通して、生徒の表情がよくなり、活動や授業に意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。また、班やペアで話し合いをする中で、生徒の考える力、伝える力が伸びてきている様子が伺えた。

2月に5月と同様のアンケートを実施した。結果は以下の通りとなった。

項目（とてもあてはまる…4、少しあてはまる…3、あまりあてはまらない…2、まったくあてはまらない…1）	
私は、課題を発見し、見通しをもって、意欲的に学習に取り組もうとしている。	3. 0 4
私は、自分の意見や考えを持ち、それを表現しようとしている。	3. 0 0
私は、友達の意見をよく聞いて、よい考えを取り入れようとしている。	3. 4 3
私は、友達の意見でわからないときは、積極的に質問し、理解しようとしている。	2. 9 0
私は、学習した内容をよく理解し、深く考えようとしている。	3. 1 3
私は、振り返りやまとめを自分の言葉で表現しようとしている。	2. 9 9
私は、学習したことを生かして、新たな課題に挑戦しようとしている。	2. 9 5

結果を見ると、ほとんどの項目で5月の結果を上回る結果となった。特に「自分の意見や考えを持ち、それを表現しようとしている。」「友達の意見でわからないときは、積極的に質問し、理解しようとしている。」という項目では高い上昇がみられ、話し合い活動に意欲的になってきている生徒の気持ちが伺えた。生徒の感想の中には「他のみんなの意見も、とてもいい意見ばかりで『なるほどな』と思いました。やはり話し合いをすると自分では考えられない意見がたくさん出てくるし、一人ひとりが違う意見を持っていて『いいな』と思いました。」というような感想があり、他の意見によって自分の考えを深める活動につながる場面がみられた。

また、五教科だけではなく、技能教科でも保育実習の計画や器楽の演奏の評価、美術作品の評価など様々な場面でペア学習やグループ学習を取り入れた。そこでも、生徒たちが主体的に知識・技能を習得しようとする姿が見られ、その成果が伺えた。

#### 5 今後の課題

今回の研究を通して、授業改善の必要性が再認識された。特に教員からは、どの教科においても課題設定が難しく、主体的・対話的な学びの場面が作れるような課題を設定するための教材研究の話し合いの場や時間を確保する必要があるという意見が多く聞かれた。今後、教科会等を充実させ、各教科の「見方・考え方」をふまえて習得・活用・探究という学びの過程の中で質の高い学びにつなげられる学習課題を設定していきたい。

また、話し合い活動の形態（ペア、グループ、全体）や話し合いの質についてのスキルアップが必要である。「意見を収束させる」「多様な意見を出す」など目的を明確にし、考えを深めたり広げたりするために有効な話し合い活動ができているか検証し、研究を進めていきたい。

主体的・対話的で深い学びの実現には、学校だけでなく家庭や地域社会との連携も必要である。研修や教科会等を充実させ、組織的に系統的に取り組み、授業改善を推進していきたい。